

## 全校集会 学校長の話（2025 年 12 月 16 日）

- おはようございます。きょうも表彰があり、みんなの頑張りが目に見える形で認められました。表彰された皆さん、おめでとうございます。
- さて、先週の火曜日の朝、僕は用事でいなかったので、お話しすることができませんでした。だから、1 週間遅れで話をしたいと思います。  
先週の水曜日、12 月 10 日は、世界人権デーでした。1948 年 12 月 10 日、第 2 次世界大戦の反省から、国際連合の会議で世界人権宣言が採択されました。それを記念して、毎年 12 月 10 日が世界人権デー、そしてその 1 週間前から「人権週間」。全国各地で人権に関する取り組みが行われます。
- その人権週間の初日、12 月 4 日。本校に玉木幸則さん（脳性まひの当事者）をお招きして講演会を行いました。まず何より、話がめちゃくちゃ面白かった。会場は何度も笑いに包まれました。一方で、内容は皆さん一人ひとりの生き方や視線に関わるものでした。  
生徒の皆さんも 8 人参加してくれました。そのことに、玉木さんがとても喜んでおられました。ありがとう。
- さて、法務省のサイトには、日本社会が向き合うべき 18 の人権課題が紹介されています。  
たとえば、子どもの人権、高齢者の人権、障害のある人の人権、同和問題（部落差別）、アイヌの人々の人権、外国人の人権、HIV・ハンセン病に関わる人権、インターネットによる人権侵害……など。
- それらの、18 の人権課題の、最初に挙げられているのは何か知っていますか？  
それは、「女性の人権」です。  
「いや、日本は男女平等やろ」  
そう思う人がいるかもしれません。でも、国際的な指標で見ると、日本はまだ遅れているというのが現実です。国際的な調査で、日本の男女平等の順位は 148 か国中 118 位です。
- 理由の一つは、政治や企業意思決定の場に女性が少ないこと。もう一つは、賃金格差。同じように働いても、スタートラインが見えないところで下げられてしまう。過去には、ある医学部の入試で女性だけ合格しにくくしていたことが明るみに出ました。「結婚や出産で辞めるから」という思い込みが、若い人たちの努力や夢を踏みにじっていたのです。
- こうした構造は、大人の社会の話だけではありません。以前全校集会でお話した、マイクロアグレッションという言葉を知っていますか。技術の木材加工が得意な女子に「女子なのにすごい！」とかを例に話しました。
- 他にも、男子がはっきり意見を言う「リーダーシップがある」。しかし、女子が同じように意見を言う「きつい」「怖い」といわれる。行動は同じなのに、性別だけでラベリングが変わる。
- 女子が家で料理・洗濯していると「えらいね」くらいで、男子がたまに料理すると「将来モテるで」「男子なのにすごい！」となる。やっている行動は同じでも、「女子はやって当たり前」「男子はやるとプラス評価」。
- こういった言葉も、同じ根っこから生まれています。ここでいう「根っこ」とは、性別で役割を決めつける思い込みと、無意識のバイアス（“普通はこう”で判断する癖）のことです。  
女性の人権は「女性だけの問題」ではなく、誰もが自分らしく生きられるかという、社会全体の問題です。
- まとめ。世界人権デーは、遠い国の記念日ではありません。自分の言葉が、誰かの未来を狭めていないか。自分の態度が、誰かの自由を奪っていないか。  
これからも、自分と隣の人を大切にする学校を、みんなで作っていきましょう。以上です。